

朝鮮彙報

地方號

大正八年十月



大正六年十月十五日第三種郵便物認可
大正八年十月十五日發行(每月一回十五日發行)

朝鮮彙報地方號第三五號

大正八年十月十五日

○朝鮮彙報ニ關スル規程

(大正六年九月)
(總督府訓令第三十九號)

朝鮮彙報ニ關スル規程左ノ通改正ス

朝鮮彙報ニ關スル規程

第一條 朝鮮ニ於ケル施政及諸般ノ狀況ヲ周知

セシムル爲朝鮮彙報ヲ發行ス

別ニ朝鮮彙報地方號ヲ發行シ主トシテ面行政

ニ關スル事項ヲ蒐錄ス

朝鮮彙報地方號ニハ諺文ヲ付スルコトアルハ

第二條 朝鮮彙報ハ毎月一日、朝鮮彙報地方號

ハ毎月十五日之ヲ發行ス但シ必要アルトキハ

臨時増刊スルコトアルヘシ

第三條 朝鮮彙報ニ掲載スヘキ事項ノ概目左ノ

如シ

一 記事

二 調査及研究

三 地方事情

四 雜錄

五 統計

六 法令及通牒

七 判決例

朝鮮彙報地方號ニ掲載スヘキ事項ノ概目左ノ

如シ

一 記事

二 研究資料

三 地方通信

四 雜錄

五 例規

第四條 朝鮮彙報編纂ノ爲編纂委員長及委員ヲ

置ク
委員長ハ總務局長ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ朝鮮總督府及所屬官署高等官ノ中ヨリ

之ヲ命ス

第五條 委員長ハ毎月一回委員ヲ會シ編纂ニ關

スル打合ヲ爲スヘシ

第六條 朝鮮彙報原稿ハ毎月五日迄ニ官房總務

局總務課長ニ送付スヘシ

第七條 朝鮮彙報ニハ依頼ニ應ジ廣告ヲ掲載ス

ルコトヲ得其ノ料金ハ別ニ之ヲ定ム

○朝鮮彙報編纂委員

委員長 朝鮮總督府庶務部長 青木 戒三

委員 朝鮮總督府庶務官 工藤 壯平

朝鮮總督府庶務官 新庄 順貞

朝鮮總督府庶務官 岡田 今朝雄

朝鮮總督府庶務官 和田 治郎

朝鮮總督府庶務官 小田 豐太郎

朝鮮總督府庶務官 澤田 丈

朝鮮總督府庶務官 同

朝鮮總督府庶務官 同

朝鮮總督府庶務官 同

朝鮮總督府庶務官 同

朝鮮總督府庶務官 同

朝鮮總督府庶務官 同

朝鮮總督府庶務官 同

朝鮮總督府庶務官 同

朝鮮總督府庶務官 同

朝鮮總督府庶務官 同

朝鮮總督府庶務官 同

朝鮮總督府庶務官 同

朝鮮總督府庶務官 同

朝鮮總督府庶務官 同

朝鮮總督府庶務官 同

朝鮮總督府庶務官 同

朝鮮總督府庶務官 同

朝鮮總督府庶務官 同

朝鮮總督府庶務官 同

朝鮮總督府庶務官 同

朝鮮總督府庶務官 同

朝鮮總督府視學官 上田 駿一郎
朝鮮總督府庶務官 林 茂樹
朝鮮總督府庶務官 田中 卯三
朝鮮總督府庶務官 本岡 榮次郎
朝鮮總督府庶務官 山口 貞昌
朝鮮總督府庶務官 國友 尚謙
朝鮮總督府庶務官 矢野 義二郎
朝鮮總督府庶務官 鏡 保之助
朝鮮總督府中央試驗所技師 宇野 三郎

○朝鮮彙報廣告掲載手續

一 廣告料ハ一頁金六圓トス

但シ廣告ニ圖畫又ハ計表其ノ他特殊ノ版式ヲ

要スルモノハ別ニ其ノ實費ヲ徴ス

一 掲載シタル廣告ノ原稿ハ一切之ヲ返付セス

一 申込所京城本町大阪屋號書店(振替口座京城

二五七三番)

定價金十七錢

郵税金一錢

朝鮮總督官房庶務部文書課長

朝鮮總督府

大和商會印刷所

大阪屋號書店

京城本町一丁目

京城觀水洞一三五番地

大和商會印刷所

大阪屋號書店

京城本町一丁目

京城觀水洞一三五番地

大和商會印刷所

大阪屋號書店

京城本町一丁目

京城觀水洞一三五番地

大和商會印刷所

大阪屋號書店

京城本町一丁目

京城觀水洞一三五番地

大和商會印刷所

研究資料

咸鏡北道

合計 八七、三九、九九、一〇、一七九、一〇四 九七、五〇、九〇、九三 六〇、八五、八四、四三

備考 本表ハ報告例第四三三號ニ據ルヲ以テ江原、咸鏡南、北道、生
產棉及忠清南道、全羅南、北道、慶尙南道ニ於ケル在來棉並ニ京畿、
黃海、平南、南、北道ニ於ケル陸地棉ハ明年一月特用作物ノ報告取經
メノ上ナラデハ詳カナラザルヲ以テ之ヲ除外セリ。

大豆作及粟作豫想

大正八年ノ大豆作及粟作ハ播種期ヨリ七月初旬ニ互
リ雨濕適度ニシテ發芽生育順調ナリシモ其ノ後八月二
十日頃迄殆ド降雨ナク稀有ノ旱魃臻リタル爲各地旱害
ヲ被リ中部以北ノ地方就中京畿道、黃海道、平安南道
及平安北道ノ四道最甚シク大豆ニ就テハ忠清南道亦被
害大ナリ今九月一日現在ノ調査ニ係ル地方別作況ヲ示
セバ左ノ如シ。

大正八年大豆作況

道名

前年ノ作柄ニ
對スル増又ハ
減收歩合

京畿道 △五割強 不 良
忠清北道 △四割弱 不 良

大正八年粟作況

前年ノ作柄ニ
對スル増又ハ
減收歩合

京畿道 △五割弱 不 良
忠清北道 △二割 不 良

忠清南道	△五割強	不 良	△四割弱	不 良
全羅北道	△五步道	普 通	△一割弱	稍 不 良
全羅南道	一步強	良 好	△二割弱	不 良
慶尙北道	△五步弱	概シテ良	△二步弱	概シテ良
慶尙南道	二步弱	良 好	一步弱	良 好
黃海道	△六割弱	不 良	△四割弱	不 良
平安南道	△六割強	不 良	△五割弱	不 良
平安北道	△五割強	不 良	△四割弱	不 良
江原道	△三割弱	不 良	△三割弱	不 良
咸鏡南道	△四割強	不 良	△二割強	不 良
咸鏡北道	△三割弱	不 良	△一割強	不 良
總計	△三割強		△三割強	

朝鮮ニ於ケル飲料水ノ水質

京畿道技手

樋下田謙治郎

朝鮮ニ於ケル飲料水ハ上水ト井河泉水ニ別ツベク上
水ハ都邑ニ於テ井河泉水ハ地方ニ於テ飲料ニ供セラル、

今上水使用都邑ヲ檢スルニ京城、仁川、平壤、鎮南浦、釜山、木浦、群山、元山、大邱、義州、海州、羅南、會寧、鎮海ソノ他簡易水道トシテハ清州、晉州、滿鐵經營トシテハ龍山、木浦、草梁アリ工事中ノモノトシテハ新義州、光州、清津、咸興アリ其總數二十三ニ達シ之ヲ内地ノ六十水道、臺灣ノ十二水道ニ比スレバ其數ニ於テ敢テ遜色ヲ見ズ今大正七年中ニ於ケル各水道ノ水質ヲ見ルニ左ノ如シ。

水道別	試驗目			
	格魯兒	硬度	固形物	有機物 細菌數
京城	四二四四	二、一二三	五九、三六一	一、六六五 一〇
仁川	四、九五	二、一一三	五、六九七	一、六〇一 一〇
平壤	二、六〇二	三、五〇三	八、四〇〇	二、六二七 二〇
鎮南浦	七、二〇一	〇、六二九	五、八一〇〇	四、〇三五 七
釜山	五、二〇八	〇、四四六	四、八一五〇	一、三九五 二二
群山	九、九六九	〇、四七〇	三、五〇〇〇	四、五〇一 二〇
木浦	一、八九六〇	〇、四〇〇	五、〇五七〇	一、〇八一 不明
元山	三、五八八	二、二六九	六、一五〇〇	一、八四四 三〇
晉州	一、二一六六	六、七六〇	七、四七四六	五、七〇七 一八四
海州	八、八三〇	〇、五五〇	二、四五五〇	一、三六六 一九

研究資料

義州	二、八二七	三、八四〇	六〇、六三〇	一、七二三	四〇
羅南	一、七〇〇	〇、四〇〇	五、五九〇〇	三、四〇〇	七
會寧	一、八〇〇	〇、三〇〇	三、四七〇〇	一、八〇〇	四〇
龍山	四、五〇〇	二、〇〇〇	五、一〇〇〇	一、二〇〇	七
草梁	一、一〇〇〇	一、〇四〇	五、三〇〇〇	一、一八〇	一六

備考 數字ハ檢水一〇〇〇立方センチメートル中ノ含量ヲミリグラムニテ示ス。

試驗方法ハ全國上水協議會協定試驗法ニ依ル。

右ノ試驗成績ニ依レバ、

一 最モ細菌數ノ少キハ龍山、羅南ニシテ是ニ次グヲ京城、仁川トシ、最モ多キハ晉州ニシテ義州、會寧是ニ次グ。

二 硬軟ヲ檢スルニ最モ硬水ハ晉州ニシテ義州、平壤是ニ次ギ軟水ハ會寧ヲ最トシ木浦、釜山、群山、羅南是ニ次グ。

三 格魯兒即鹽分ハ木浦、晉州最モ多ク羅南、會寧最モ少ナシ。

四 固形物ハ平壤、晉州多クシテ海州、會寧、群山少ナク有機物ハ晉州、群山多クシテ草梁、龍山、釜山少ナシ。

(不良)五〇分以上ノモノ 十二箇(七%)

斯ノ如ク朝鮮沿線各驛水質ハ比較的ニ良好ナリキ、素ヨリ各驛水質ヲ以テ全鮮水質ト看做スコト能ハズト雖茲ニハソノ一斑ヲ知り全斑ヲ窺フノ資料トセント欲スルノミ、朝鮮地方在來ノ公共井水ノ水質不良ナルハ井戸側ノ構造不備ニシテ下水ノ浸入容易ナルト著シク水量ノ不足セルコトモ亦注意スベキ一事トス、水量ノ不足ハ殖林ニヨリテ水源ヲ涵養スルヨリ外ニ途ナカルベシ。

斯クテ衛生思想ノ向上、衛生施設ノ完備ト共ニ飲料水水質ノ改善ハ自ラソノ水質ノ上ニ現ハレ來ルベキモノトス今一斑ヲ記シテ後日及同志ノ資料ニ供セント欲ス。(完)

朝鮮牛ノ毛色

黃海道畜産技手

吉田雄次郎

一 緒言

余ハ元來動物ノ毛色ニ關シ頗ル興味ヲ有セリ、彼ノ華カナル色彩、斑紋、滑ラカナル又艶ヤカナル毛ナミ、各其ノ特徴ノ異ナル彼等ノ毛色ハ充分嘆美スルノ値ア

ルニ非ズヤ、殊ニ畜牛ノ毛色竝ニ其ノ分布ヲ研究スルハ、畜ニ家畜ノ遺傳進化學考究上唯一ノ要件タルノミナラズ、動物學的研究上ヨリ見テモ亦甚ダ興味アル問題ニシテ、同時ニ又其ノ經濟的利用法ヲ論ズルモ、更ニ其ノ價值ナキモノニアラザルナリ、故ニ余ハ大正五年朝鮮保護牛規則ノ制定セラレ、其ノ第一回檢査ノ實施セララル際、擔當區域タリシ黃海道谷山、遂安、新溪三郡ニ於テ之レガ記録ヲ止メタリ、勿論本調査ハ一地方ニ限局セラレテ、其ノ範圍狹キガ故ニ朝鮮牛ノ毛色トシテハ其ノ一般ヲ論ズル事能ハザルモ、此ノ三郡ハ平安南道、咸鏡南道、江原道等ニ界接シ、地方的ニ共通セシ點モ多ク、從ツテ畜牛ノ出入モ甚ダ頻繁ナルガ故、稍西鮮牛ノ毛色ヲ窺フニ足ルベキモノナリト信ズ、然レドモ朝鮮ニ於テハ未ダ此種ノ記録ナキヲ以テ、分色法及特徴ノ記載方法等ハ凡テ我流ニテ記述セリ、爲ニ粗笨誤謬ノ點ナキヲ保シ難ク、識者ノ叱正ヲ賜ハラバ幸トス。

二 毛色ノ分布及系統

朝鮮牛被毛ノ主色ハ支那牛及アルプス地方ニ産スル褐灰牛種ト甚ダ酷似ス、又同毛色ノ牛種ハ小亞細亞、

シリヤ、亞刺比亞、阿弗利加等ノ地方ニモ傳播スト云フ、故ニ朝鮮牛モ其ノ毛色分布上ヨリ推斷スレバ、支那牛ノ系統ニシテ古昔支那ヨリ渡來シテ以來、地方ノ風土的感作ヲ受ケ、幾世代ノ間地方的ニ生存上ノ淘汰ヲ經テ、今日ノ朝鮮牛ヲ形成セシモノナラント信ズ。

朝鮮牛ノ毛色ハ褐色ヲ以テ主色トス、而シテ就中其ノ赤褐色ナル被毛ノ多キハ褐色毛ノ野生類原種ヨリ、幾多ノ世代ヲ經テ人意的ニ改良セラレタルモノニ非ズ永年ノ間赤色土壤ノ地ニ生存セシタメ自然淘汰ノ結果其ノ保護色トシテ稍一定セル毛色ニ地方土化シタルモノニシテ、恰モ本邦内地ノ黑色土壤地方ニ黑色毛ノ牛ヲ産シ、支那ノ黃色土壤地方ニ黃牛ヲ産スルノト其ノ揆ヲ一ニスルモノナラン、故ニ朝鮮ニ於ケル朝鮮在來牛種ノ毛色ハ之レヲ牛其ノモノノ生存上ノ要求ヨリ見テモ帶赤褐色ナルヲ至當ナリト云ハザルベカラズ。

三 毛色ノ經濟的價值

畜牛ノ毛色ヲ畜産工藝品トシテ即チ畜產物利用ノ見地カラ、其ノ經濟的價值ヲ論究スルモ亦興味アル問題ナラズトセズ、先ヅ製革上ヨリ毛色ノ價值ヲ論ズレバ、牛皮ノ被毛ハ褐色毛、白色毛ヲ最上等品トナシ、黑色毛

ハ最劣等品タルヲ免カレズ、彼ノ製革上進歩セル獨逸ニテハ之ヲ赤毛上皮、黒毛下皮ト稱シツツアルヲ見テモ其ノ一般ヲ窺フニ足ルベシ、即チ黑色毛ハ光線ヲ常ニ多ク吸收スルガ故ニ其ノ不斷ノ刺戟ニ依リテ皮質ガ荒廢セラレ、爲ニ品質ヲ下スガ故ナルベシ、此ノ點ニ關シテハ日本皮革株式會社ノ技師長土居川佐一郎氏ガ、第三回全國畜産大會ニ於テ製革原料トシテノ獸皮ト題シ、朝鮮牛ノ毛色ニ就テ左ノ如ク立證セラレタリ。

朝鮮ノ牛皮ハ主ニ褐色デアリマス、又此ノ褐色ハ大分良イ褐色デアリマス、日本内地ニハ餘リ褐色ガ出來ナイノデアリマスガ、牛ノ皮ハ褐色ガ良イノデアリマス、黒イ色ハ光線ヲ吸收致シマスカラ、ドウモ皮ガ惡イ、皮ニ疵ガ多イ、又纖維ガ緩ンデ居ルトカ、表面ガ荒サレテ居ルトカ色色缺點ガアリマス、此ノ褐色ノ皮或ハ白色ノ毛ヲ持ツタ皮ハ黑色ノ皮ヨリ大變品質ガ良イノデアリマス、獨逸アタリデハ赤毛牛皮ト黒毛牛皮ト一封度ノ單價ガ違ヒマス、朝鮮ノ赤色ノ牛皮ハ非常ニ光澤ガアル、是レデ兵士ノ脊負フ背囊ハ皆朝鮮ノ牛皮ヲ以テ造リマス、又外ニ天津ナドニモ矢張り赤毛牛皮ガアリマスガ、ドウモ光澤ガ

朝鮮ノニ及ビマセヌ。

故ニ此點ヨリ論ズレバ朝鮮ノ毛色ハ赤褐色ヲ最多トスルガ故、製革ノ原料トシテハ良好ナル資格ヲ具備スルモノナリト云ハザルベカラズ、又朝鮮總督府中央試驗場ノ白石金八氏ガ案出セラレタル、牛毛織所謂高麗毛織ハ、過般農商務省ヨリ製織ニ牛毛利用ノ嚆矢トシテ、實用新案ノ特許ヲ受ケ、從來ノ服地、外套類ノ外、尙朝鮮人ノ周衣、竝ニ内地人ノ厚司ニモ需要ヲ見出タリト云フ、從來餘リ有益ニ利用セラレザリシ、牛毛ヲシテ一道ノ光明ヲ得ルニ至ラシメタルハ、確カニ朝鮮畜産工藝ノ一進歩ニシテ、之レヲ祝福スルト同時ニ新案者ノ勞ヲ多トセザルベカラズ、而シテ其ノ原料タル牛毛ハ褐色毛ヲ漂白シテ種種染色シタルモノノ由ナルガ故ニ、此點ニ於テモ褐色毛ハ漂白困難ナル黒色毛ヨリハ幾分カハ利用ノ途大ナリト云フベシ。

四 毛色、皮膚及皮毛ノ性狀

抑モ野生ニ近キ狀態ニ飼養セララル家畜ハ、其ノ毛色ニ於テ人工的ニ飼養シタル家畜ニ比較シ、割然タル毛色ノ定型ナク、多種多樣アルハ論ヲ俟タザル所ナリ、故ニ朝鮮牛ノ如キ野生ノ發育ニ近ク、放任的ニ飼養セ

ラル家畜ニアリテハ、之レガ色種別ニ應ジ割然タル區別ヲ設クルハ頗ル至難ナリトス、而シテ斯ノ多種多樣ナル主毛色ヲ分類スレバ褐、黒、黄、白ノ四毛色ニ大別スル事ヲ得ベシ、其ノ内最モ普通ナル毛色ハ褐色ニ赤色ヲ加味シタルモノニシテ、此毛色ハ殆ド朝鮮牛ノ特徵トモ云フ事ヲ得ベシ。

褐色毛ハ帶赤色ヲ主トシテ濃厚ニ又淡薄ニ現ハレ、又黄褐色、黒褐色、灰褐色ニ至ル等各種ノ變色ヲ現ハセリ、而シテ是等ノ各毛色モ必ズ牛ノ全軀體ニ一様ニ分布セルモノニ限ラズ、時ニ頭部、顔面、頸部及胸、脊線、腹部、尾、四肢等ノ各部ニ於テ屢相違セル、各種ノ毛色及毛列ヲ現ハシ、又時ニ限局セル範圍ニ暗色及淡色ヲ呈シ、又一本ノ毛ニ於テモ毛根部若シクハ毛尖端ニ限局セル異色ヲ見ル事アリ、尙淺褐色所謂麴麴色ト稱スルモノアレドモ、多クハ紅黄色ヲ加味スルモノ多シ、即チ黄色ガ優性トナリ赤色ヲ加ヘ、主色ナル褐色ヲ劣性ニ陷ラシメタルガ如キ觀アリテ、稍固定セル毛色ナルベシ、軀幹モ亦優秀ナルモノ多シ、此毛色ハ普通、牛ノ全軀體ニ普及スルヲ常トス、然シ時トシテハ限局セル範圍ニ於テ、等シキ體色ノ暗色又ハ淡色ヲ

呈スル事アルモ、異色毛ヲ呈スルガ如キ事ハ尠シ、特ニ眼及口ノ周圍ニ黑色環狀ノ毛列ヲ有シ、又ハ耳内ニ黑色毛ヲ有スルモノハ屢見ル所ナレドモ、鰻線ノ黑色ナルモノハ殆ド見タル事ナシ。

黑色毛ニ普通ノ黑色、漆黑色、又ハ褐黑色ノ別アリ、漆黑色ノモノニハ全軀同一ノ黑色毛ニシテ、異色毛ノ生ゼシモノ少キガ如シ、但シ時ニ白毛、白斑ヲ認ムル事アリ、褐黑色ノ牛ニハ褐鰻線多シ又褐黑色ニシテ淡色ノ下毛ヲ有スルモノハ、一見シテ黑色ノ牛ト區別シ難キ事アルモ、斯ノ如キ牛ハ日光ノ下ニ於テハ褐色ヲ帶ブル事著シ、然シ純粹ノ黑色牛ハ日光ノ直射ヲ受クルモ常ニ黑色ヲ呈シテ變化スル事ナシ、概シテ黑色毛ノ牛ハ其ノ骨格纖弱ナルモノ多キガ如シ、但シ褐黑色ノ牡牛ニシテ特ニ骨格ノ偉大ナルモノ多クアルヲ、新溪郡沙芝面ニ於テ觀タル事アリ、白色ニ純白色、白色、灰白色ノ別アルモ、純白色ニシテ異色毛ナキモノハ殆ド稀有ニ屬シ、總テノ實驗中只僅ニ遂安郡栗界面ニ於テ一回之レヲ見タルノミナリ。

白色ノモノニハ白毛、白褐斑等ノモノ多ク、灰白色ノモノニハ頭部、尾、四肢等ニ雜毛ヲ生ゼシモノ多

シ、簾ハ一ニ虎毛トモ云フ黑簾、赤簾(褐簾)等アリ、而シテ其ノ骨格ノ一般ニ優良ナルハ奇異ナル現象ナリ。

毛色ニ因ル特徴ノ毛列ニ糊口ト云フモノアリ、一ニ鹿口或ハ粉口トモ云フ、之レハ口ノ周圍ヲ圍繞セル細キ環狀ノ毛列ニシテ、周圍ニアル頭部ノ毛色ヨリ特ニ鮮明ナリ、又上肩部ヨリ脊線ニ沿ヒ尾根ニ至ル、濃色若シクハ淡色又ハ他ノ異色毛ノ、例ヘバ褐色牛ニハ黑色毛ノ、黑色牛ニハ褐色毛ノ毛列アリ即チ鰻線ナリ之レニ完全ナルモノト不完全ナルモノトアリ、即チ不完全ナルモノニハ上肩部ト尾根部ニ現ハレテ中絶シタルモノ、若シクハ腰部ヨリ尾根ニ至ルモノ、又ハ肩部ヨリ腰部ニ止マルモノ等多種アリ、眼ノ周圍ニ環狀ヲナセル淡色若シクハ異色毛ノ毛列アリ一ニ眼鏡ト云フ、其ノ色別ニ依リ白眼鏡、黑眼鏡ト云フ、就中多キハ褐色牛ニ於ケル腹部ノ淡色毛列ナリ、腹部ノ淡色毛列ハ普通腹及脚ノ内側或ハ外側ヨリ始マリ、乳房及腹部ノ全般ニ擴ガリ、前脚ニ至リ數多ノ線ニ分レ、前脚ノ内側或ハ外側ニ分走スルモノ多シ、又純白色ノ別徵ヲ呈スルモノアリ、顔白アリ、額ノ星アリ、鼻白アリ、腹部

ノ白斑モ亦多シ、又乳房、尾部、足部、臀部等ニ白色若シクハ白斑ヲ有スルモノアリ。

皮膚及露出粘膜ハ其ノ被毛ガ淡褐色若シクハ黃褐色ナルモノハ、其ノ毛色ニ應ジテ淡色ナルヲ普通トスレドモ時ニ暗色ヲ呈スルモノアリ、被毛ノ褐色濃厚ナルモノハ其ノ粘膜普通暗灰色、暗黑色若シクハ汚暗黒色ナルモノ、中ニハ暗綠色、汚暗綠色ヲ呈スルモノ稀ナリトセズ、被毛黒毛ナルモノハ其ノ皮膚及粘膜モ從ツテ黒色ヲ呈ス、又所謂肉色トカ薔薇色トカ稱スル鮮明ナル口粘膜ヲ有スルモノハ殆下見タル事ナシ。

概シテ朝鮮牛ノ皮膚ハ一般ニ比較的重厚ニシテ、其ノ毛ハ長ク且ツ粗硬ナリ、然ドモ其ノ被毛ノ褐ノ淡色ナルモノハ一般ニ其ノ皮膚モ軟薄ニシテ毛モ亦短滑ナルモノ多キガ如シ、殊ニ飼養管理ノ充分ナル畜主若シクハ内地人ニ飼育セラレタルモノニ於テ然リトス。

五 調査ノ年月及區域頭數

事項 郡別 谷山郡 遂安郡 新溪郡 計

自大正五年十一月十五日 自大正六年二月十一日 自大正五年十二月十六日 自大正六年三月九日
 鳳鳴面(但シ鳳鳴面ヲ除ク) 泉郡一圓(但シ泉郡一圓ヲ除ク) 沙芝面(但シ沙芝面ヲ除ク)

自大正六年一月十二日至同年一月十五日 同年三月十七日 自大正六年二月十九日

當時ノ畜牛現在總頭數

保護牛檢査頭數

毛色調査頭數

備考 調査年月日中大正六年二月十九日ハ重複セシ如ク記載アルモ右ハ遂安郡檢査ノ際序ニ隣接面タル新溪郡沙芝面ヲ實施シタルモノナリ。

保護牛檢査頭數ヨリモ毛色調査頭數ノ少キハ人員及天候(檢査期間ニハ氣溫攝氏ノ零下三十度ニ降リタル事アリ)ノ關係ニテ調査ノ餘裕ナカリシニ依ルモノナリ。

谷山郡中ニテ毛色調査ヲ除キシハ、谷山、雲中、鳳鳴、寬美、清溪ノ五面、新溪郡中ニテハ美水、赤余ノ二面ナリ。

六 毛色別ノ調査

一 褐色

褐色ノ毛色ニシテ普通赤牛ト云フ、詳シク區分スレバ濃赤褐色、赤褐色、淡赤褐色、濃褐色、褐色、淡褐色、黃褐色、淺褐色、灰褐色、黑褐色其他ニ類別

スル事ヲ得レドモ調査ノ際其ノ餘裕ナク左ノ如ク三別トセリ。

一 赤褐色 赤色ヲ帶ビタルモノ

二 褐色 褐色、灰褐色、黒褐色之レニ屬ス

三 黄褐色 黄色ヲ帶ビタルモノ

但シ毛根部黒色ニシテ毛尖端褐色ヲ呈シ、從ツテ望見ノ際褐色ヲ呈スルモノハ褐ノ部ニ屬ス。

二 黒色

黒色ノ毛色ニシテ普通ノ黒色及漆黒色、褐黒色等ヲ含ム。

但シ毛根部褐色ニシテ毛尖端黒色ヲ呈シ、一見シテ黒色ナルモノハ此ノ部ニ屬ス。

三 白色

白色ハ左ノ如ク三別セリ。

一 純白色 純白ナルモノ

二 白色 普通ノ白キモノ

三 灰白色 灰色ノモノ

四 斑

二種以上ノ毛色ニ依リ斑色ヲナスモノニシテ簾ヲ除ク、又胸、腹下ニ異色毛斑ヲ有スルモ其ノ胸、腹ノ

研究資料

壁ニ上ラザルモノ、異色毛斑ガ肘及後膝以下ニアルモノ、又異色毛斑ガ其他ノ體部ニ存スルモ其數二箇以上ニ達セズ、且ツ其ノ大サ拳大以上ナラザルモノハ斑ト見做サズノ記載ノ體軀ノ大部分ヲ占ムル毛色ヲ冠記シ、其ノ小部分ヲ占ムル毛色ヲ下記シ左ノ如ク區別セリ。

一 褐白斑 白ヨリ褐大部分ヲ占ムルモノ

二 褐黒斑 黒ヨリ褐大部分ヲ占ムルモノ

三 黑白斑 白ヨリ黒大部分ヲ占ムルモノ

四 黒褐斑 褐ヨリ黒大部分ヲ占ムルモノ

五 白褐斑 褐ヨリ白大部分ヲ占ムルモノ

六 白黒斑 黒ヨリ白大部分ヲ占ムルモノ

七 三色斑 褐、黒、白ノ毛色斑ノ稍等シキモノ又ハ以上ノ斑ト雜色毛トノ斑ヲナスモノ

五 簾

體軀ノ二分ノ一以上ニ互リ二種ノ異毛色交互ニ簾狀ヲ呈スルモノニシテ左ノ二種ニ區別セリ。

一 褐簾 簾ノ褐色勝ナルモノ

二 黒簾 簾ノ黒色勝ナルモノ

六 雜毛

體ノ二分ノ一以上ニ互リ二種以上ノ異色毛ガ極メテ

研究資料

細小ナル斑狀ニ交雜スルモノ、若シクハ霜降狀ヲ呈スルモノ、其他雜色毛ニシテ何レニモ屬セザルモノヲ含ム。

毛色別調査表

毛色別	頭數	郡別				合計	百分率
		谷山郡	遂安郡	新溪郡			
赤褐色	牝牡	二八三	二四八	一一〇		二二五	二七・六三
褐色	牝牡	六七九	六六五	二二〇		一五六四	二一・五三
黃褐色	牝牡	二八八	四四三	一八九		一八九五	二・五三
黒色	牝牡	三〇七	五二〇	一四八		一、二五五	一五・五三
白色	牝牡	三〇九	一五六	四四		一、二五五	一五・五三
純白色	牝牡	二四七	一八三	六二		九四四	一二・七二
灰白色	牝牡	四一	四二	二一		一〇四	一・二七
黒白斑	牝牡	二八	三三	二八		二八八	三・五七
黒褐斑	牝牡	一三七	一三五	九四		二二五	二・七九
褐斑	牝牡	一四三	四六	二五		二七一	三・四五
黒白斑	牝牡	三九〇	二七八	九五		九八	一・二二

調査頭數	牝牡	毛色ニ因ル特徴調査			
		黒	褐	三色斑	白黒斑
計	牝牡	八七四	一、一三四	五〇八	二、五二六
牝	牝	二、三七二	二、三八六	七七七	五、五三三
牡	牡	三、二四六	三、五三〇	一、二八五	八、〇五一

一 鰻線

上肩部ヨリ脊線ニ沿ヒ、尾根ニ至ル濃色若シクハ淡色又ハ他ノ異色毛ノ毛列ニシテ色ニ依リ左ノ如ク區別セリ。

一 褐鰻線

二 黒鰻線

三 白鰻線

二 額星

軀體褐色ニテ濃色ニ現ハレタルモノ及軀體他ノ色ニテ褐線ノ現ハレタルモノ
 體軀褐色其他ノ色ニテ黒線ノ現ハレタルモノ
 白線ノ現ハレタルモノ

額ノ純白色ナル毛色ニシテ左ノ種類ヲ含ム

一 星 比較的小ナル白斑
二 大 星 比較的大ナル白斑ニシテ一ニ額白ト云フモノ

三 流星 星又ハ大星ニシテ其ノ白斑内毗間線ヲ越ヘ鼻梁ノ上ニ至ルモノ

三 面 白 顔面ノ白色ナルモノ。

四 鼻 白

鼻梁上ノ白斑ナリ但シ流星ノ白斑切斷セズシテ鼻梁白上斑ヲナスモノハ流星ノ一部分ト見做シテ額星ノ部ニ入ル。

五 糊 口

口圍ヲ圍繞セル環狀毛列ニシテ周圍ニアル頭部ノ毛色ヨリ特ニ鮮明ナルモノニシテ其ノ色ヲ區別セズ左ノ種類ヲ含ム。

一 糊 口 口圍全部ガ異色毛ナルモノ

二 上糊口 上唇ノミ異色毛ナルモノ

三 下糊口 下唇ノミ異色毛ナルモノ

六 腹 白

胸、腹部ノ白斑ニシテ胸、腹ノ壁ニ上ラザルモノ。

研究資料

七 足ノ異色毛

肘又ハ後膝以下ニ於テ一足若シクハ四足ニ白、褐、黒ノ異色毛ヲ有スルモノ。

八 尾ノ異色毛

尾體ノ或部分以下異色毛ナルモノ、若シクハ尾總ノ異色毛又ハ刺毛アルモノ等ニシテ毛色ニ依リ尾褐、尾黒、尾白、尾尖褐、尾尖黒、尾尖白其他尾刺毛等ヲ含ム。

毛色ニ因ル特徴調査表

特 徴 別	別	谷山郡		逢安郡		新溪郡		合 計	百 分 率
		牝	牡	牝	牡	牝	牡		
鰻 線	白	一七二	五四	二〇五	四八	九五	六二六	七六五	
	黒	一三	五	一六	七	五九	〇・七三		
額	星	一四九	九九	一〇〇	一六	三二	四四八	五五六	
	白	一三	五	一六	七	五九	〇・七三		
面	白	一三	五	一六	七	五九	〇・七三		
	白	一三	五	一六	七	五九	〇・七三		
鼻	白	一三	五	一六	七	五九	〇・七三		
	白	一三	五	一六	七	五九	〇・七三		

四五

糊口	腹白	足ノ異色毛	尾ノ異色毛	合計	調査頭數
牝牡	牝牡	牝牡	牝牡	牝牡	牝牡
九三	二八	二五	五七	五三八	八七四
二八六	三六	六八	二三	一四〇七	二二七二
一二二	三三	五六	四三	五五五	一、一三四
二六八	一三七	九四	二六	一、四九九	二、三八六
一三五	二六	三八	九	二八九	五〇八
九六二	四二一	二九七	三八四	一、三八二	二、五二六
二・九四	五・二二	三・六八	四・七六	六〇・七一	五、五三五
					八〇五一

本調査ノ實施ニ際シ多大ノ便宜ト助力ヲ與ヘラレタル谷山郡守朴喜宅、郡庶務主任小柴和義、遂安郡庶務主任鈴木一、農業技手忠田暢雄、新溪郡書記李承九、農業技手管野慶一郎氏及谷山憲兵分隊長藤井熊太郎、新溪警察署長川上玉次氏ノ諸氏ニ對シ其ノ厚意ヲ深謝ス。

平安北道義州金剛山ノ森林植物

總督府技手
石戸谷勉

朝鮮ノ北西部平安道ト南滿洲安圖地方トハ單ニ鴨綠江ヲ以テ界スルノミニシテ其ノ間ニ特ニ植物ノ分布ヲ

限界スルカ如キ高峻ノ山嶺、海洋又ハ廣大ナル沙漠等
ノ介在スルモノ無ク尙又土地ノ成立、地質、土壤等ニ
關シテモ兩者ヲ區別スベキ著シキ由因ヲ存セス地勢自
カラ一團地ヲ成スヲ以テ兩地ノ植物ニハ數多ノ共通種
ヲ見出シ得ルモ尙朝鮮ノ中部、北部ニ産スルモノニシ
テ滿洲ニ於テ未ダ發見セザルモノナキニアラス。

例へば1アカシデ2ヒロハノケハンノキ3ハンノキ
4ヲノヲレカンバ(樺木科)5コナラ(殼斗科)6アケ
ビ(木通科)7テウセンメギ(小蘗科)8オホヤマレン
ゲ(木蘭科)9テウセンウメウツギ10テウセンウツギ
(虎耳草科)11スグリウツギ12フサシモツケ13ケイゼ
ウウハミツザクラ14テウセンニハデクラ15コゴメウ
ツギ(薔薇科)16テウセンキハギ(荳科)17ニガキ(苦
木科)18テウセンヒメツゲ(黄楊科)19ヤマウルシ(漆
樹科)20ウスゲヤマモミヂ21オクノハウチハ(槭樹
科)22マルバクロウメモドキ(鼠李科)23オホボタイ
ジュ(田麻科)24マタタビ(獼猴桃科)25テウセンミヅ
キ26ミヅキ27クマノミヅキ28ヤマバウシ29サンシユ
ユ(四照花科)30テウセンヤマツツジ31ゲンカイツツ
ジ(躑躅科)32エゴノキ(齊墩果科)33イワレンゲウ34